

現代社会における子どもの貧困問題

－求められる支援と問題解決に向けて－

丸谷愛未茜

本論文の目的はまず子どもの貧困問題の実態をあきらかにすることである。実態を把握したうえで、日本において子どもの貧困問題解決に向けてどのような政策をとっているか。さらに、実際にその現場で働く職員の方の活躍と想いから、現場のリアルな状況を述べる。そして、今後子どもの貧困問題を解決していくにあたって、必要としている支援について明らかにすることを研究の目的としている。

第1章では、日本における貧困の始まりと現在の貧困状況、そして子どもの権利と子ども家庭庁について述べている。

第2章では、子ども基本法と東京都を例に子どもの支援と東京都にある子ども食堂について述べている。

第3章では、実際に子どもの貧困に関わる仕事をしている方にお話を伺ったので、その概要とお仕事をしている社会福祉協議会と民生委員について、実際の事例と今後の展望について述べた。今後の展望として6つのことについてお話いただいた。

終章では考察を大きく3つに分けて述べている。

本論文の考察として、1つめは子どもの貧困問題解決に1番重要なことは金銭的な支援であると考え。お金がないがないことで精神的余裕がなくなり追い詰められ、最悪の場合虐待がおきてしまう可能性がある。金銭的支援があれば、毎日の暮らしが豊かになり精神的余裕が生まれるのではと思う。

2つめは貧困状態に陥ってしまった時の対処する力をつけることである。子どもは貧困のなった時になにをしていいのか分からないので、学校の授業で教えることで今後の役に立つ。貧困の専門の方の出張授業などを行っていただくのもいいのではないか。

3つめは誰でも気軽に足を運ぶことの出来るセーフティネットが必要であることである。気軽にごはんを食べることができたり、お話ししたり、勉強したり、いつでも子どもやその家庭、近所に住む人、すべての人を受け入れてくれる場所、心のよりどころのような場所が必要であると私は考える。子どもも子どもに関わる大人も誰でも安心できる場所はなかなかないが、全国的に一つでも多く早くできてほしいと思う。

やはり子どもがすくすくと生きていくには親だけでなく、周りの大人からも愛されて育つことが必要である。子どもが成長していくには大人の存在は必要不可欠であるので、大人たちが子どもを大切に考える心がとても大事である。子どもが世界の宝であるという認識を忘れずに、子どもの貧困問題を全員で考えていくことを続けることが重要である。